

評価項目	学習指導
------	------

重点目標	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善により、学びへの意欲を高めるとともに協働的に話し合い、活動する力を培う	P
現 状	・授業での発表には積極性が見られるが、発表し合いになる場合もある。発表をつなげて学び合いの質を高める研修は、継続を要する。	
具体的な目標	○教師の切り込み力を鍛えて「つながる学び合い」を「深い学び」に結び付けていく。子どもの表情や言葉に意思が表れるようにする。 ○県学習状況調査で全学年・全教科で県平均を上回ることを目指す。	
目標達成のための方策	○「つながる学び合い」を基盤とした教師の切り込み力の育成 ○後半重視型である「峰小授業スタイル」の共通実践 ○ICTを活用した分かる授業の構築 ○教師による「見合う授業」の積み重ね ～ 教師・児童の表現力育成	

具体的な取組状況	○児童の意欲を引き出し「学び合い」を深めるような教師の「コーディネート力」をテーマにして、教師全員が「見合う授業」を実践した。教師同士が意見交換しながら「つながる学び合い」と「教師の切り込み」を研修し、回を重ねるごとに理解を深めてきた。 ○新任の先生方のために、年度初めに教育専門監による模範授業を実施して「峰小授業スタイル」による授業のイメージを共有した。そして、ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善に取り組んできた。	D
達成状況	○全国学習状況調査（6学年）では、参考の比較だが、全教科で県平均を上回る良好な結果であった。 ○「見合う授業」を通して、教師間で「峰小授業スタイル」が共有され、記録が保管回覧されることで研修が積み上がっている。	

自己評価	(評価) A	○県の学習状況調査では、4・5・6年生とも県平均と同じか、大きく上回っている。 ○学び合い学習が、1～6年生で確実に実践されていて、高学年になるほど発表意欲と話し合いの技量が向上している。委員会や班活動でも協働的に活動できる。 ・教師の説明が長い授業もまだいくつか見られた。	C
------	-----------	---	---

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	特A	学校を訪問した際に授業参観したが、電子黒板やデジタル教科書を活用した授業、子どもたちがタブレットを活用した学習を見て驚いた。子どもの発表や話し合いも活発で感心した。学習状況調査で、良い結果も出ているという事であったので、先生方の指導の成果が表れているのだと思う。昔のような教える授業でなくて、今の授業は進んでいる。	C
------------	----	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	校内の授業研究会や研修は全教員が行って、峰浜小学校の授業スタイル確認と授業力向上の成果が上がった。「学び合い」という点では、教師によるコーディネート力を一層向上できるようにしていきたい。本校に在籍する算数の専門監による授業研修会を、より充実させたい。また、5・6年生だけでなく、1～4年生の教員にも指導に入れるような教育課程の工夫を考えていきたい。	A
-----------------------	--	---

評価項目	生徒指導
------	------

重点目標	児童会と学級会の活動を児童主体で活発にして楽しい学校をつくる	P
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には仲良く穏やかな生活を送っている。たくましさも鍛えたい。 ・高学年生が児童会活動への意欲を高めてきている 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの学校は自分たちで良くする楽しくすることを目指す ○児童主体で、新しい委員会活動を工夫することや学級会の話し合いを活発にすることを目指す。新企画を各学期にチャレンジさせる。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○児童総会、代表委員会、計画委員会と学級を組織的につなげる ○日常活動を充実させるために、6年生のリーダーを育成する ○学級会を全学年で確実に実施し、具体的な実践を行う ○学級会の(1)(2)(3)の意義を職員で研修し、指導力を高める 	

具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○6年生がリーダーとなり、児童会活動を活発化している。コロナ対策で行事は少なくなっても、児童自らが楽しい学校づくりをするように努めている。縦割り班での清掃は、リーダー育成や児童の学びの場になっている。 ○全校集会や行事での6年生の発表機会を増やすことにより、自信を育てている。 ○学級会の実施による自己決定により児童自らの実践意欲を高めた。 	D
達成状況 ※	<ul style="list-style-type: none"> ○6年生がリーダーとなり、児童会活動を活発化した。コロナ対策により行事は少なくなったが、6年生の自覚が高まり児童自ら楽しい学校づくりをするように努めている。縦割り班での清掃は各児童の学びの場になっている。 ○どの学年でも学級会を確実に実施している。 	

自己評価	(評価) A	<ul style="list-style-type: none"> ○6年生がリーダーとして代表委員会を実施して、全校へ「児童会だより」で細やかに呼びかけた。 ○6年生が「良い学校・楽しい学校」を作ろうとした。 ・今年度は活動場面、時数が少なくなってしまった。 	C
------	-----------	--	---

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	A	子どもたちが進んで活動していたのは、とてもよいことだと感じた。そして、6年生がリーダーシップをしっかりと発揮していたことも素晴らしい。コロナ対策により、臨時休校や行事の変更があった中で、子どもたちはよく頑張っていた。先生方の指導や励ましも効果的だったのだと思う	C
------------	---	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>コロナ対策の臨時休校があったために、子どもたちの「学校で友達と勉強したい」「友達と一緒に遊びたい」という気持ちが高まっていった。6年生の意識が高まり、児童会活動についての指導や支援も効果的に行われ、26人の6年生のリーダーシップが向上した。お手本を見せてくれた6年生の姿を下級生に引き継ぎ、「自分たちの学校は自分たちでよくする、楽しくする」を峰浜小学校の伝統にしたい。</p>		A
-----------------------	---	--	---

重点目標	ふるさとに目を向けた活動を通してキャリア教育を充実させる	P
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールにより、地域連携の体制が整えられてきている。一方、今年度はコロナ対策で地域人材との交流が難しい。 ・地域についての学びを総合的な学習に頼っている傾向がある。より広い学びができるように、教科や行事での活用を探っている。 	
具体的な目標	○地域の特色を体感したり教育力を生かした多様な体験活動や調査活動を実践したりして、ふるさとのよさ感じ取り理解するとともに地域の課題に気付き、地域に貢献しようとする意識を高める。	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の特色に直接接する機会を設定し、地域の人から学ぶ・触れ合う機会を通して、自分の生き方を考えさせる。(コロナ対策しつつ) ○総合的な学習の時間を中心に、峰浜地区の特産品の生産状況を探る学習を充実させる。また、地域行事などに協力していく。 ○峰浜地区に加え、八峰町のよさや特色を理解できるように、八森小との交流を進める 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○3年生は、梨づくりについて春から果樹農家で調査している。 ○4年生は、町観光協会の協力でラベンダーを乾燥させてサシェを作り、町民祭で販売する予定。 ○5年生は、JA青年部の協力で内荒巻で稲作を行い、収穫した。今年度はキャリア教育につなげるように、先進的な田植えや稲刈りを見せてもらった。また、限定的に販売できるように相談を重ねて書面を作成している。 ○6年生は、JA青年部の協力で蕎麦の栽培に挑戦している。 	D
達成状況	○先進的な自動田植え機械やドローンでの農薬散布は、特に男子の興味を引いていた。また、作業にも意欲的に取り組んでいた。	
自己評価	<p>(評価)</p> <p style="text-align: center;">C</p> <ul style="list-style-type: none"> ○5年生の米作りでは、先進農業に触れるとともに、「峰っ子米」をおらほの館で販売した。給食にも提供した。 ・地域の方々との交流は、コロナのためにできなかった。 	C
<p>↑ 評価基準 ↓</p> <p>A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
学校関係者評価と意見	<p style="text-align: center;">B</p> <p>コロナ感染対策のために、老人クラブとの交流や地域指導者による正課クラブの実施などはできなかったのは、仕方がないことだった。総合的な学習では、米作り体験だけでなく先進農業に触れさせたり販売につなげたりして発展していた。制約があった中で、十分に成果があったと思う。</p>	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	総合的な学習での地域の産業を学ぶ学習では、昨年度と違う形で進歩させることができた。4年生のラベンダーのサシェ販売は、町民祭に八峰中学校で実践できた。5年生の米作りでは、おらほの館から新たに協力をいただいていた販売体験もできた。子どもたちは第一次産業から第三次産業を体験してキャリア教育となった。次年度は、地域の方々との交流を増やして、ふるさとの意識を向上させたい。	A